

令和4・5年度
鹿児島県租税教育研究委嘱校

租税教育の実際



令和5年11月28日
いちき串木野市立串木野中学校

目次

I	はじめに	1
1	いちき串木野市の概要	1
2	串木野中学校の概要	1
II	研究の概要	2
1	研究主題	2
2	研究主題設定の理由	2
3	研究の仮説	2
4	研究目標	2
5	研究組織	2
6	研究の経過	3
III	研究の実際	4
1	租税教室	4
2	家庭教育学級	1 1
3	各教科の取組	1 1
4	生徒の作品	1 3
IV	研究の成果と課題	1 5
1	アンケートの結果と考察	1 5
2	研究の成果	1 7
3	今後の課題	1 7
4	おわりに	1 8

I はじめに

1 いちき串木野市の概要

平成 17 年 10 月、串木野市と市来町が合併し、いちき串木野市ができました。西に白砂青松が続く吹上浜の海岸線を臨み、東に徐福伝説の霊峰冠嶽を控えるいちき串木野市は、海・山・温泉などの自然と温暖な気候に恵まれた風光明媚な場所に位置し、また、3つの駅・2箇所の高速インターなど生活環境と利便性にも恵まれたまちです。

そして、縄文後期に人々が漁労や狩猟をして生活を営み、広い範囲にわたって人と物と情報の交流をしていたことを示す県指定文化財の市来貝塚や、徐福伝説とともに薩摩における山岳仏教の中心地として発展してきた冠嶽、さらに、江戸時代の陸上交通において薩摩街道出水筋の宿場として、また海上輸送の一中心地として物資等の集散地となり、宿場町と商業の地として栄える一方、金鉱業と遠洋まぐろ漁業のまちとして栄えてきたという、これまでに累々と積み重ねられた歴史と、そこから生まれた文化があります。

また、1865 年薩摩藩英国留学生 19 名が近代日本の礎を築くため翔ばたい黎明の地でもあります。私たちもこの勇敢な先達の思いを胸に、今再びこの地から 21 世紀の夢を発信していきます。(いちき串木野市 HP より)



2 串木野中学校の概要

市の南東部にある学校は、市街地の東側高台に位置し、市街地をとおして東シナ海を遠望できる閑静で恵まれた環境にあります。

市街地の一部を含み、市役所をはじめ公的な機関や住宅街、農村等を一括する校区で、歴史的にも伝統があります。



Ⅱ 研究の概要

1 研究主題

租税に関心を持ち、正しい知識を身につけ、主体的に社会に貢献する生徒の育成

2 研究主題設定の理由

鹿児島県における租税教育のねらいは、「租税に関連した事項を通して郷土について関心を高め、公民としての資質を身につけ、国家及び社会における権利と義務の主体者として、自主的に判断し行動するための諸能力を育てる。」である。

私たちの身近なところには、税金によってつくられ、整備されたものやサービスがたくさんあり、社会生活の中で、税がどのように活用されているか理解している生徒は少ない。生徒の税に対する意識は低く、税によって社会生活が支えられている実感は少ない。

そこで、身近な生活の中にある「税」に対して興味・関心を高め、正しい知識や理解を深めることで、主体的に社会に貢献しようとする態度や資質を育成することができ、本校の教育目標「夢と志を持ち、主体的に学び考え行動し、心豊かでたくましい生徒を育成する。」を達成することができると考え、本研究主題を設定した。

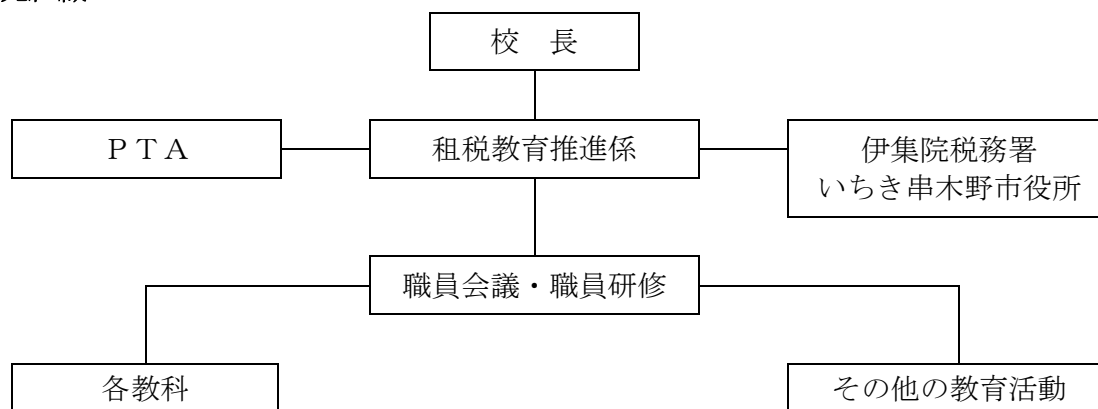
3 研究の仮説

身近な社会生活と税の関連を、租税教室や各教科等で理解を深めることで税に対する興味・関心を高め、税によって社会生活が支えられていることを知り、権利と義務の主体者として、社会に貢献できる生徒を育成することができるのではないか。

4 研究目標

- (1) 税に関する興味・関心を高める。
- (2) 税の意義や役割を正しく認識し、理解させる。
- (3) 税との関わりを知り、社会の一員として主体的に社会に貢献する態度を育成する。

5 研究組織



6 研究の経過

<令和4年度>

月	内 容
6	研究委嘱を受ける 研究主題・計画等の打ち合わせ
7	租税教室（3年生）の打ち合わせ・開催（いちき串木野市役所税務課） 税に関する作品募集（夏休み課題）
8	税の作品作成（夏休み課題）
9	税に関する作品の応募
10	アンケート準備・実施
11	県租税教育研究会への参加
12	「財政教育プログラム」（3年生）打ち合わせ，開催（財務事務所）
1	租税教室（1・2年生）の打ち合わせ・開催（伊集院税務署）
2・3	初年度の反省と来年度に向けての計画

<令和5年度>

月	内 容
4・5	今年度の計画，準備
6	財政教育プログラム（2・3年生）打ち合わせ，開催（財務事務所） 家庭教育学級打合せ（伊集院税務署）
7	租税教室（1年生）の打ち合わせ・開催（いちき串木野市役所税務課） 税に関する作品募集
8	税の作品作成（夏休み課題）
9	税に関する作品の応募
10	県租税教育研究会に向けての準備
11	県租税教育研究会への参加・発表
12	財政学習のまとめ
1・2・3	租税教育の総括

Ⅲ 研究の実際

1 租税教室

(1) 令和4年度第1回租税教室 ～令和4年7月12日（火）6校時実施～

研究委嘱を受けて初めての租税教室を夏休み前に開催した。第1回目の目標は、『身近な税について理解を深め、税の役割に気付かせ日常の生活の在り方を考えさせる』ことを目的として実施した。いちき串木野市税務課の方を講師に招いて、税金の仕組みについて分かりやすく説明して頂き、DVD「アナザーワールド」の視聴を通して、個々の生活に密着した身近なところから税への関心をもたせようと考えた。

今回は、委嘱を受け初めてということもあり3年生を対象として実施した。税について学ぶことで、夏休みに実施する「税に関する作品の募集」等に多くの生徒が取り組み、さらに税に関する理解を深めることができるのではないかと考えたからである。

租税教室を開催するにあたって、講師であるいちき串木野市役所税務課の方と打ち合わせを行ったが、新型コロナウイルス感染者の急増により大事をとって急遽、各教室で行い、リモートで講話を聴くことになった。講師の方も初めてのことで戸惑い、各教室で受けていたため、生徒がどのような反応や理解、感じ方をしているが分かりづらかったようだった。

令和4年度 租税教室

- | | | |
|---|-------|---|
| 1 | 目 的 | ・ 身近な税についての理解を深めさせる。
・ 税の役割に気付かせ、日常の生活のあり方を考えさせる。 |
| 2 | 日 時 | 7月12日（火）6時間目（社会）15：05～15：55
※ 14：45～来校予定 |
| 3 | 対象生徒 | 3年生（90名） |
| 4 | 講 師 | 市役所税務課 |
| 5 | 内 容 | ① 講師紹介（2分）
② 講話（45分）
③ お礼（2分）
※ 教室で感想を書く（宿題） |
| 6 | 場 所 | 体育館 → 校長室から各教室へリモート |
| 7 | そ の 他 | 学校準備 … パソコン、プロジェクター、スクリーン |

(2) 令和4年度第2回租税教室 ～令和4年12月8日（木）5・6校時実施～

7月の租税教室を受け税に関する知識や理解がある程度深まっている3年生を対象に財政教育プログラムを実施した。また、公民で税について学習を始めた時期だったので、興味をもって取り組むことができた。

令和4年度 租税教室（財政学習）

- | | | |
|---|-------|--|
| 1 | 目 的 | ・ 税の役割に気付かせ、日常の生活のあり方を考えさせる。
・ 日本の財政に興味をもたせる。
・ 財政を自分たちに関わる問題ととらえ、国の将来について考え、判断できる知識を育ませる。 |
| 2 | 日 時 | 12月8日（木）5・6時間目（社会）14：05～15：55
※ 13：45 来校予定 |
| 3 | 対象生徒 | 3年生（90名） |
| 4 | 講 師 | 財務事務所 |
| 5 | 内 容 | ① 講師紹介（2分）
② 財政教室（100分）財務局持参のタブレット使用
③ お礼（2分）
※ 教室で感想を書く（宿題） |
| 6 | 場 所 | 体育館 |
| 7 | そ の 他 | 学校準備 … プロジェクター（電子黒板）HDMI 対応、
スクリーン、マイク、イス、机 |



はじめに、九州財務局鹿児島財務事務所職員の方から、財政学習教材「日本の財政を考えよう」やDVDを活用しながら分かりやすく国の歳入や歳出など財政の仕組みや現在の日本の財政状況などの説明を受けた。

日本の税収は1990年度を境に伸び悩み不足分を国は借金をし、穴埋めしている。さらに新型コロナウイルス感染症対策対応のため、歳出が増えているという内容のもので、今年度の予算を元に『財務大臣になって考えよう』というものだった。日本の財政状況を踏まえ、生徒が5～6人のグループに分かれ、財務大臣になったらどのような予算配分を行うかを「若者にやさしい社会」「子育てしやすい社会」などのテーマを決め話し合った。財務事務所の方が3名、伊集院税務署の方が1名来てくださり、アドバイスを受けながら各グループとも様々な意見が飛び交い、熱い議論がなされていた。

各グループで話し合ったことをまとめ、各班のテーマに沿った予算配分を発表した。「子育てに優しい社会」「教育の充実」等のテーマが多く、若い世代に向けた予算の組み方が多かった。

本日の内容

- ① クイズ
- ② 日本の財政を考えよう（動画）【15分程度】
- ③ パンフレット「日本の財政を考えよう」の説明【15分程度】
- ④ グループワーク【65分程度】
 - 「財務大臣になって日本の予算を作ろう」
 - 各班で予算の目指す方向性を決めます
 - タブレットを使って、予算の増減を実際にやってみます【45分程度】
 - 各班、どのような予算にしたか代表者に教えてもらいます【20分程度】
- ⑤ まとめ【5分】
- ⑥ アンケート記入

生徒の感想

財政は簡単かなと思ったけど、グループワークでやってみるととても難しかった。あれを増やしたからこれを減らそうとしても、逆に借金が増えて難しかった。これからの日本はどうなるのかが少し気になりになる。

私たちが、健康で豊かな生活を送るためには、「公共サービス」が必要になり、そのためには、お金が必要!! そのためのお金を国民みんなが出し合って、みんなの生活に役立つことに使っていく活動ということを知れた。

財政についてほとんど知らなかったけど、今日の学習を通して知ることができた。生徒一緒にこれからの日本についても考えることができた。少し難しかったけど、私たちの生活を支えてくれている税のことを知れて、なんか賢くなれた気がした。

(3) 令和4年度第3回租税教室 ～令和5年1月19日（木）5校時実施～

初年度最後の租税教室は1・2年生対象に第1回目の目標と同様に、身近な税について理解を深め、税の役割に気付かせ日常の生活の在り方を考えさせる目的で実施した。

伊集院税務署の方を講師に招いて、「私たちの生活と税」を使い税金の仕組みについて分かりやすく説明して頂き、DVD「アナザーワールド」の視聴を通して、税の大切さや必要性について学習に取り組むことができた。また、主権者教育の観点に立って、「予算について話し合い決めるのは国会議員で、しっかり予算の使い道を考えてくれる人を選挙において選んでほしい」とも話してくれた。

2学年同時に行うため、新型コロナウイルス感染防止のため、リモートで実施することになった。



生徒の感想

たくさんの税について話してくださり、すごく税について興味をもてました。例えば私たちは、憲法によりいろいろな権利が保障されていることなどです。ほかにも税は、学校の机やいすなどさらに教科書にも使われていることも知ることができました。最初は税について難しく考えてしまうことが多かったけど税は大切なことだと知れてよかったです。

いろいろな税があって公平に収めていることや国がたくさんの借金をしていることを初めて知りました。税金を納めないといろいろなことが不便になって生活できなくなるので税金はとても大切なものと改めて感じることができました。将来しっかりと税金を納めて社会に貢献できるようにします。

自分たちの生活にどれだけ税金がかかわっているか、生活していくうえでの税金の大切さについて知ることができました。自分たちの未来のためにも、今日学んだことを思い出して納税していきたいです。

今日の租税教室で、やっぱり世の中には税金が必要ということがわかりました。税金は人々が豊かに生活できるように集めているそうです。これからももっといろんな税を知りどんなことに使われているのか調べてみたいです。

(4) 令和5年度第4回租税教室 ～令和5年6月9日（金）3・4校時実施～

令和5年度第5回租税教室 ～令和5年6月9日（金）5・6校時実施～

研究委嘱を受けての2年目の最初は、2・3年生を対象に財政教室を実施した。昨年度、第3回の租税教室で、大まかな税の仕組みや財政について学習をしているので、財政教室を実施した。内容については、第2回の租税教室と同じもので、タブレットの関係で、時間を変えて学年ごとに実施した。

初めて、2年生にも実施したが、3年生以上に活発に活動をして取り組んでいた。子育てや教育に力を入れるグループが多く、高齢者のための財源をいとも簡単に大胆に削減するグループが多く見られた。これまでの学習で、3年生よりも少子高齢社会について学ぶ機会がまだ少ないからではないかと思われる。

各グループの発表の際、財務事務所の方々が、それぞれのグループが発表した後、コメントをして頂いたが、すべて前向きなコメントで生徒も喜んでいる様子だった。



生徒の感想

日本に借金がたくさんあり、自分たちが大人になったときはもっと大変になることを知った。グループで話し合っ友だちのいい意見をたくさん知られてよかった。（2年生）

日本の財政は国民全員が快適に暮らせるように考えられているのだと感じました。一方で日本は大量の借金をしていることが分かり年々増えているのを見て不安になりました。これ以上借金が増えないような仕組みや国民一人一人の意識を高めることも大切だと思いました。

（2年生）

財政は自分たちとは関係ないと思っていたのが、今の自分たちにできることは何だろうと思うまでになりました。なにに税金がどれだけ使われているのかなどを知れてよかったです。
(2年生)

少子高齢化になって高齢者にお金が行くのは分かるけど、今は借金が多く、税金が多くて、若者が苦しむ世の中になるのは少しいけないと思いました。(2年生)

みんなと予算の増加や減少を考えるのはとても難しかったけど、財務事務所の方や先生たちのおかげで理解でき、楽しく活動することができた。(3年生)

消費税が高いと文句を言っていたが、バランスをとるために必要だということを知った。
(3年生)

税について、歳入が歳出に追い付いていないということは分かっていたが解決するにも、複雑で難しいものだった。自分たちにも深く関係していることなので、自分にできることはやっていきたいと思った。(3年生)

日本の借金を返していくためにはどうすべきかを考えることができ、自分たちが生活できているのはいろいろな人たちの力があり、いろいろな法があることで安全な暮らしができているんだと改めて感じた。(3年生)

2 年生

グループワークシート【財政大臣になって予算を作ろう！】

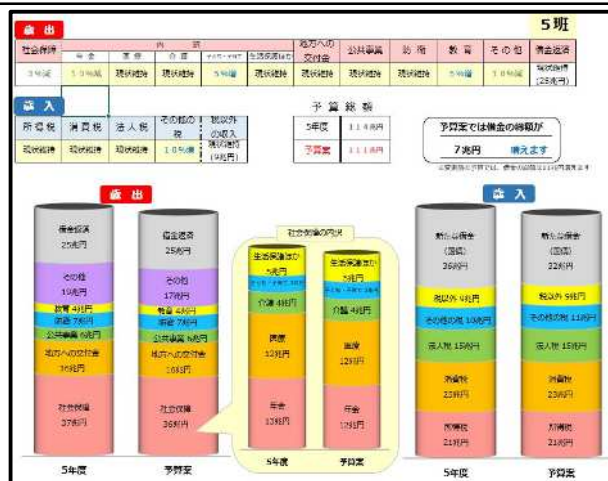
1. 予算案のテーマを決定しよう。(例)「高齢者に優しい社会」「若者の未来」など

2. グループで議題の予算案を考えよう。グループで話し合った内容(増減した増減など)をシートに書き込みながら決めてください

提出予定

項目	内容	金額
歳入	消費税増徴	100億円
歳入	法人税増徴	50億円
歳入	その他の増徴	20億円
歳出	高齢者医療費	150億円
歳出	若者支援費	80億円
歳出	その他の減額	30億円

予算案の総額: 歳入 170億円、歳出 260億円、赤字 90億円



3 年生

グループワークシート【財政大臣になって予算を作ろう！】

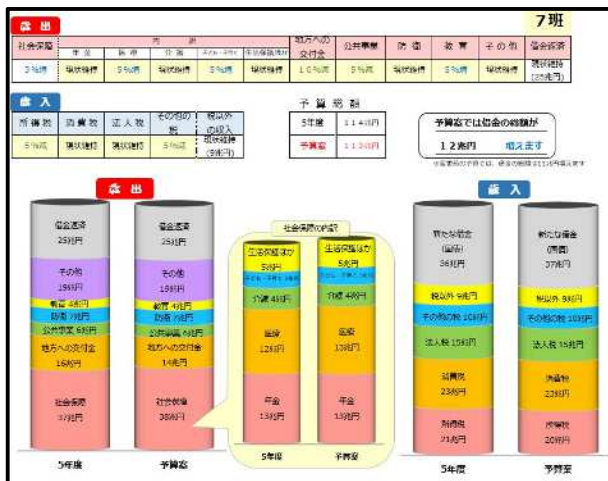
1. 予算案のテーマを決定しよう。(例)「高齢者に優しい社会」「若者の未来」など

2. グループで議題の予算案を考えよう。グループで話し合った内容(増減した増減など)をシートに書き込みながら決めてください

提出予定

項目	内容	金額
歳入	消費税増徴	100億円
歳入	法人税増徴	50億円
歳入	その他の増徴	20億円
歳出	高齢者医療費	150億円
歳出	若者支援費	80億円
歳出	その他の減額	30億円

予算案の総額: 歳入 170億円、歳出 260億円、赤字 90億円



(5) 令和5年度第6回租税教室 ～令和5年7月12日（水）6校時実施～

今年度入学した1年生を対象に、令和4年度の第1回租税教室と同じ形で、いちき串木野市税務課の方を講師に来て頂き実施した。

今年度は、全学年夏休み前に租税教室を行い、夏休みの課題である「税の作品」に向けて意識を高めることができた。財政学習以外では、初めて体育館で実施できた。



生徒の感想

どんどん上昇している消費税は、私たちにとって厄介な存在だと思っていました。それに納められた税が私たちの生活のどこに使われているのか分かりませんでした。今日の租税教室で学校にかかわることも税のおかげと知りました。私たちの生活に税は大切な存在なのだなあと思いました。その税を無駄使いしないように心がけてほしいです。将来、給料をもらえるようになったら、しっかり税金を納めて、社会に貢献したいです。

今まで、税は面倒だと思っていました。けれど税はみんながよりよく生きられるように役立っていると思うと税をしっかり納めたいと思いました。中学生は約112万円かかっているのだと驚きました。

税がないととても不便だということが分かりました。身近なところ（学校や教科書など）にも税が使われていると知って税の大切さが分かりました。また、税にもいろいろな種類があると聞いてもっと詳しく調べたくなりました。

私たちの生活と税は非常にかかわりがあるということです。税がなければ勉強や生活に支障が出てしまい、自由に暮らしていけないことがわかりました。また、税はみんなで使っていくこともわかりました。物を買ったときに人々は税を納めより良い社会にしていこうためにみんなで税を使い、世の中は動いていることもわかりました。

今日の租税教室で分かったことは、税は私たちの安全に役立っていることや平等に教育を受けるためのお金に使っていることがわかり、このことを考え、自分の払った消費税が社会のために使われていることを考え過ぎたいです。

2 家庭教育学級

今年度は、生徒の身近な納税者である保護者にも関心をもってもらい、家庭での働きかけも大切だと考えた。そこで保護者に向けて具体的な啓発活動として家庭教育学級を活用した。

伊集院税務署の課長さんに来て頂き、生徒が学んだ租税教室の内容や確定申告などの話をし
て頂き、実際に自分のスマホで確定申告の方法を学んでいた。内容が難しく感じたようで戸惑
っており、悪戦苦闘しながら時間も忘れて取り組んでいる様子だった。



3 各教科の取組

(1) 国語

- ・ 社会科と協力して夏休み課題の「税の作文」の呼びかけや習字について夏休み前に指導した。

(2) 社会

- ・ 租税コーナーで、税に関する話題を取り上げた。

(3) 数学

- ・ テストで、税に関わる問題を出題した。

(4) 理科

- ・ 理科ではたくさんの実験器具や薬品等がある。すべて税金で購入していることを自覚させ、良い状態で実験器具を使えているのはこれまでの先輩たちが大切に使ってきたおかげであると伝え、これからも大切に使用することを理解させている。

(5) 英語

- ・ 単元名 Unit 4 Be Prepared and Work Together

ア 日本で地震にあった外国の方の体験談を読んで、内容を理解する。

イ 体験談を読んで、外国の方に支援できることを英文で書く。

ウ カナダと日本の消費税の違いや税金が使われている公的サービスの違いを知り、税について興味・関心をもつ。

(6) 音楽

- ・ 学校で使われている楽器は、高価なものが多く、維持管理費もかかる。すべて税金で賄っていることを自覚させ、大切に使用するように指導している。

(7) 技術・家庭

- ・ 『消費者生活・環境』で家計や売買契約など金銭管理を扱う分野で税について関心を高めた。



(8) 総合的な学習の時間

栄養教諭による食育講話 令和5年1月20日(金) 5校時

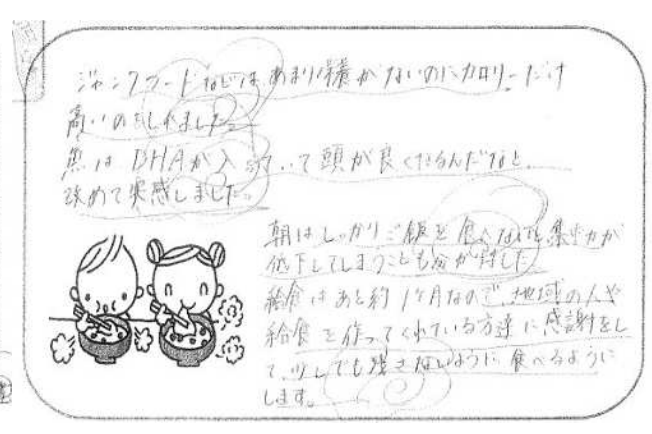
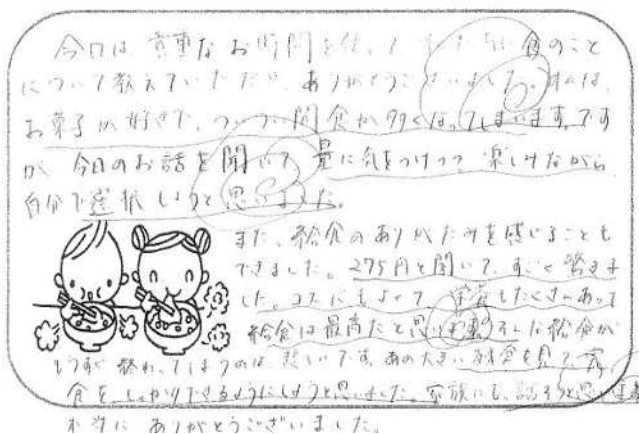
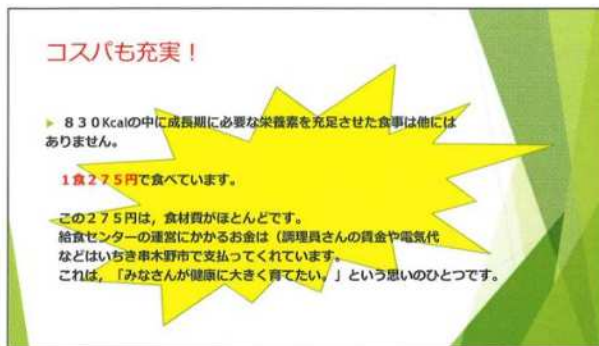
受験期の食生活について講話する中で、学校給食で保護者から徴収している「給食費」は食材費のみであり、運営費や人件費などは税金で支払われていることは話した。

さらに、今年度は物価高騰から給食費だけでは食材費をまかなうことが難しく、補助金を頂いて運営していることを話した。

また、いちき串木野市立給食センターは3年前に建て直しを行い、その時の建築費もすべて税金によって行われたことを話した。

このように、学校給食には多くの税金が使われているが、これは「成長期に必要な栄養をしっかりとって健康な体で育ってほしい」という地域の人々からの思いから頂いているものであることを伝えた。

みなさんは、地域の人々からも応援されて今があるので、地域の人たちにも感謝の気持ちを忘れずに頑張してほしい旨を伝えた。



(9) その他



租税教室

「税」について問われたら、皆さんはどのように答えますか？
税とは「取られるもの」「仕方なく納めるもの」「納めなければならぬ」等、ネガティブな感想が多いのではないのでしょうか？
ちなみに教頭先生もそのような気持ちを抱いていました。

現在串木野中学校では、「租税教育」の充実ということで『税』に関して勉強する機会を設けています。6月には生徒対象の「財政教室」や保護者対象に家庭教育学級でも行いました。



「租税教育」という言葉を聞くと、単に国民が税金を払う義務を教えるものと想像しますが、税金をきちんと払うという道徳観を植え付けることだけを目的とする教育ではありません。この国の主権者として、**税に對する関心を持ち、正しく税金を支払うことに加えて、税金が国家国民のために正しく活用されているかを監視する**といった、健全な納税者意識の醸成も目的の一つです。

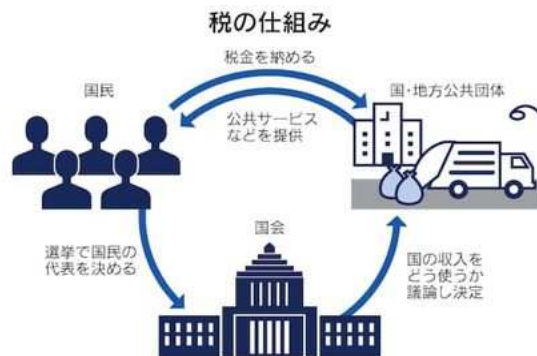
租税教室を通して、これからの日本社会を担っていくであろう串木野中学校の皆さんを含めた若い世代が、税のしくみを知ることで「税金を納めてより良い日本にするぞ!」という意識が高まっていけば、今よりはるかに日本が豊かになると期待できます。

6月9日(金)は2年生、3年生を対象に財政教室が行われました。各グループで、財務大臣になって予算を作成しました。どのような予算案になったでしょうか。



子供たちの感想です。

- 映像を見て、財政のことをしっかりと理解することができた。また、グループ活動を通しての意見交換や、他の組のグループの考え方を共有できたので良かった。これを機に、いろいろな税のことを改めて見直すことができた。また、自分でもこれから税についてどんどん知っていくべきだと感じた。【2年 〇〇 〇〇〇 さん】
- この授業を受けて、税金は自分たちの身近なところにあり、しっかりと考えていかなければならないという問題とわかった。【2年 〇〇 〇〇〇 さん】
- 財政についての授業を受けてみて、今の日本の財政がどれだけ苦しい状況なのかを知りました。私たちが今後引っ張って行く立場になるので、今のうちに財政についての知識を深めたいと思いました。【2年 〇〇〇 〇〇 さん】



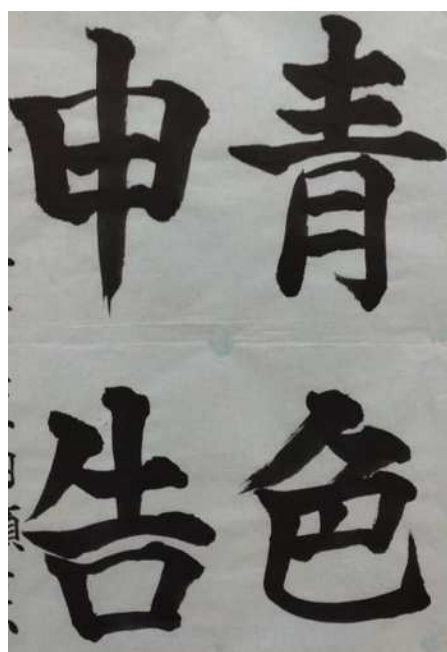
もし税金が無かったら...



公共サービスを受けるのにすべての費用を自分で負担しなければならず、困ります。みんなが豊かで安心して暮らしていくのに、税金はとても大切なものですね。

4 生徒の作品

<令和4年度「税に関する作品」>



納税で 日本未来をささえよう 知って学んで暮らし豊かに

<令和4年度「税に関する作品」：作文の部>

租税教育推進協議会優秀賞

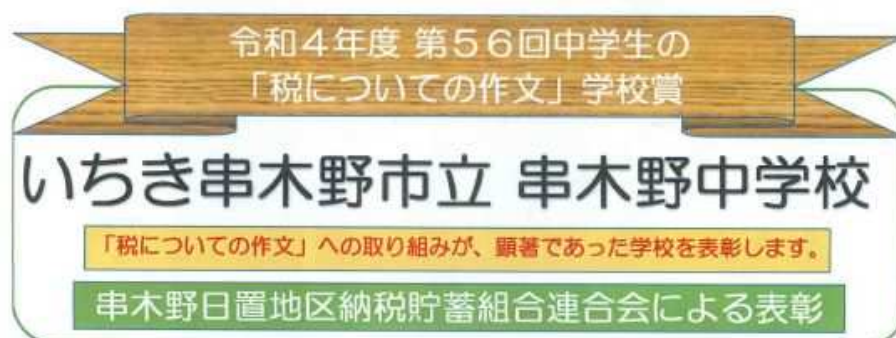
『私たちにできること』

国とは、まるで大企業のようなものだ。国民は社員で、豊かな資金がないと経営が成り立たないところなどそっくりだ。つまり、資金にあたる部分が税というわけだ。

国民の生活をいかに安全に、そして豊かに、便利にできるかが、結局、国の最大にして究極の目標だ。そのために様々なサービスや施設を作るわけだが、それには多くの資金が必要となる。みんなが使うものだからみんなでお金を出す。これが税金だ。税金はいろいろな形で徴収されている。消費税や所得税で知られるメジャーなものから、酒税やたばこ税など、子どもである私には縁のないものまで、国税と地方税を合わせると実に幾種類もの税がある。これを納めなければならないのはなぜだろうか。私たち日本国民には、憲法で定められた「納税の義務」がある。だから、確かに国民の義務として納税しなければならない。しかし、本当は、自分たちのための投資として、喜んで納められれば一番いいと思う。実際、北欧の国々、ノルウェー、スウェーデン、フィンランドでは、「高福祉高負担」という言葉で知られる通り、良いサービスを受けるなら、高い税金や高い社会保険料を負担しなければならないという考えになり、日本とは比べ物にならない程大きい負担を国民に強いている。それでも、国民からの不満の声が上がらないのは、自分たちが納税した資金が、きちんと使われていると実感できているからだろうと思う。

私はまだ参政権もない子どもなので、きれい言ばかりと言われるかもしれないが、いずれ大人になってこの国を動かしていく世代でもある。そんな私の理想の一つだが、国民は、自分たちのためにも高い税率を受け入れてもいいと思う。その代わり、国は、私たちの大切な財産を預けられる信頼を国民から得なければならない。この人なら、私たちの将来を任せられる。そんなリーダーが表れてくれれば幸せだ。その上で、社会保障制度や年金のあり方、税の使い道など、ただ他国をまねるのではなく、自分の国にあったものを自分たちらしく考えていく必要があるのではないだろうか。

税は国の大切な収入源であるから、なくしてはいけない。目先の利益にとらわれて、税率を引き下げてもいけない。苦しい生活の中納税した資金が、正しく、よく実感できる形で返ってくれば、誰も文句は言わないだろう。税金の使い道の公平性についても、話し合いが必要だ。みんなで支払っているのだから、みんながその恩恵を受けなくてはならない。しかし、国民にも様々な人がいる。本当に助けが必要な人達こそ、優先的に税金で救われるべきだ。子どもである私たちは、無力だが、無意味な存在ではない。今こそ、税に関心を持って、未来を考える時だと思う。



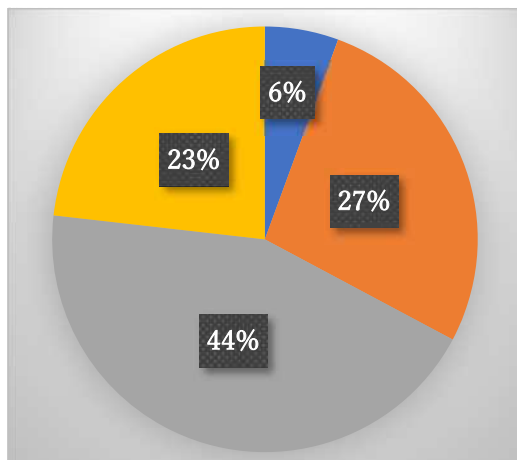
Ⅲ 研究の成果と課題

1 アンケートの結果と考察

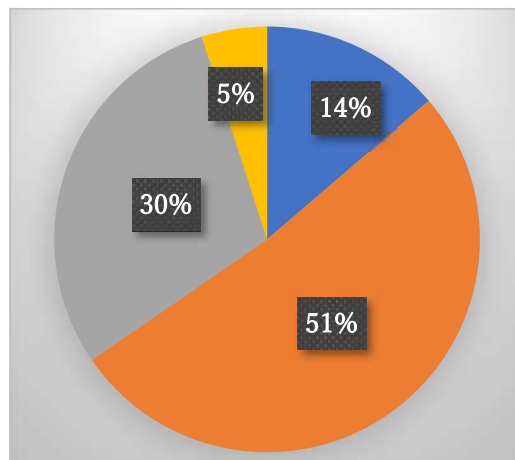
(1) 税について興味・関心がありますか。

■ある ■少しある ■あまりない ■ない

R 4



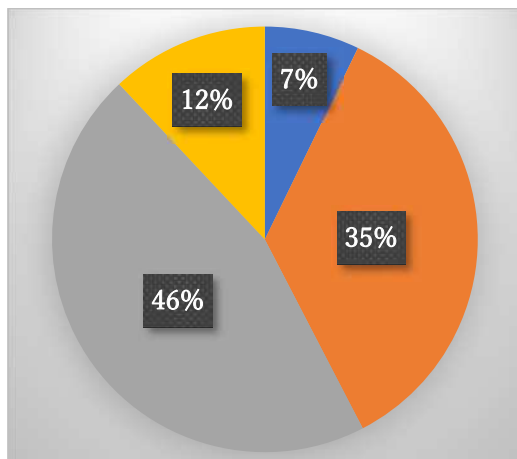
R 5



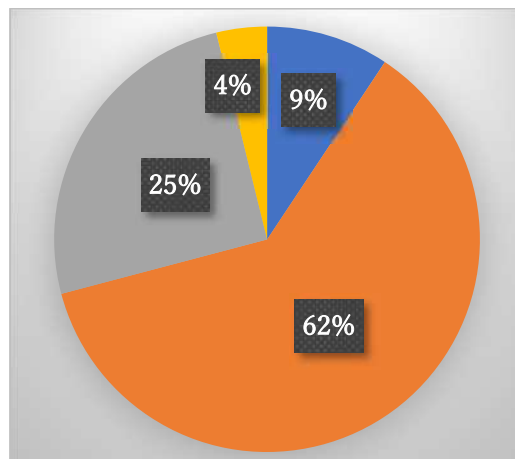
(2) 税金について知りたいと思いますか。

■とても知りたい ■知りたい ■あまり知りたくない ■知りたくない

R 4



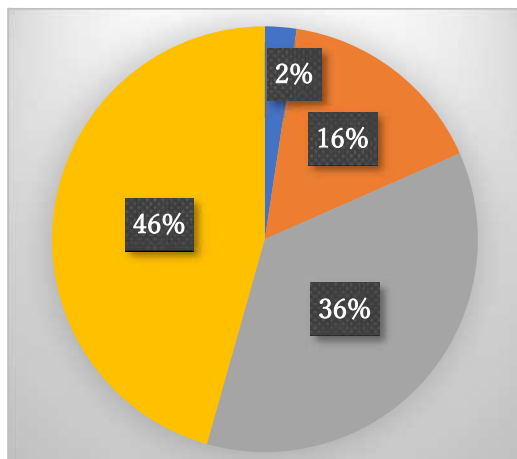
R 5



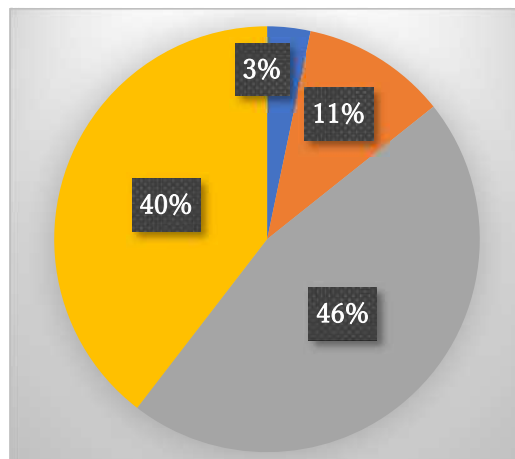
(3) 税について家庭で話をしますか。

■よくする ■たまにする ■あまりしない ■しない

R 4



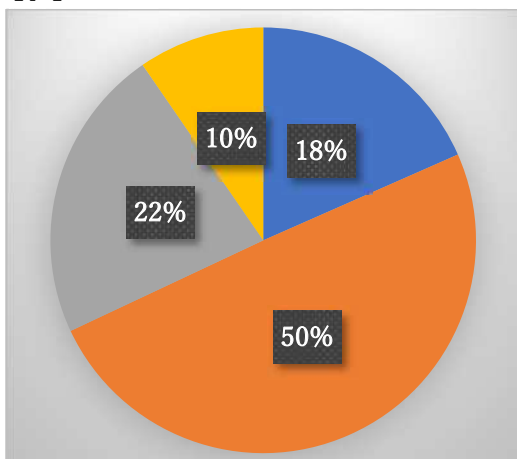
R 5



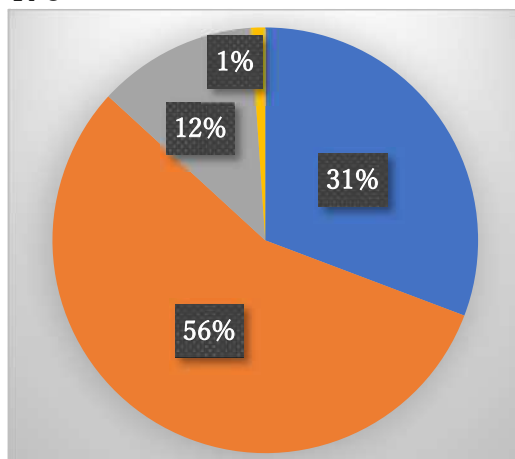
(4) 税金が役に立っていると感じたことがありますか。

■よくある ■たまにある ■あまりない ■ない

R 4



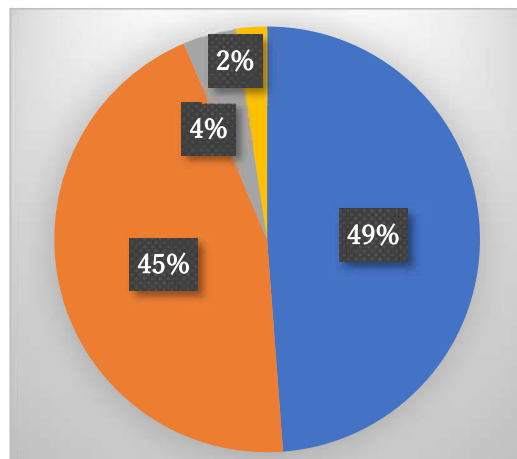
R 5



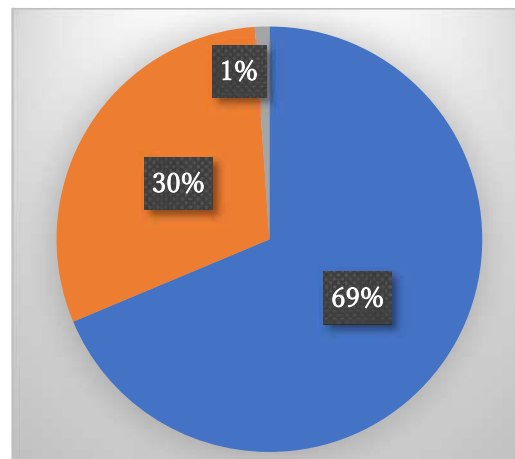
(5) 税金は納めるべきものだと思いますか。

■よく思う ■思う ■あまり思わない ■思わない

R 4



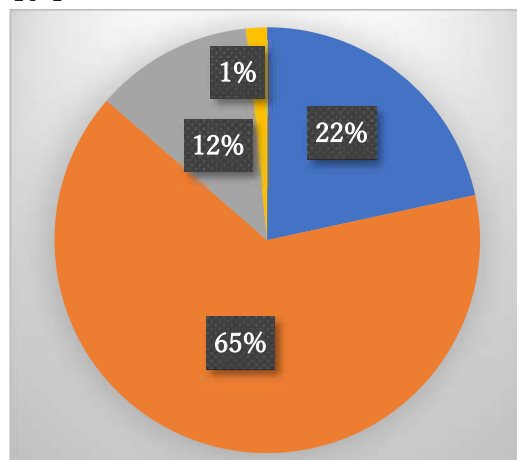
R 5



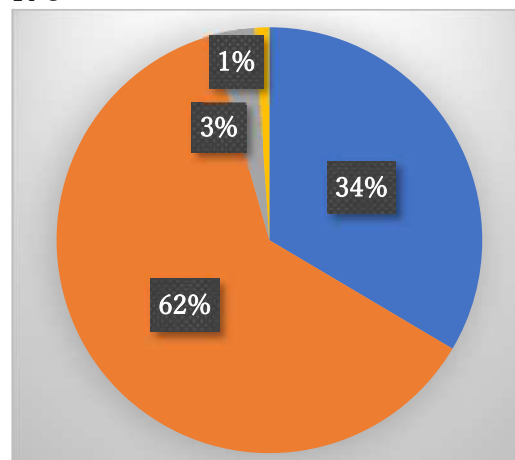
(6) 税金について学習することは必要だと思いますか。

■とても思う ■思う ■あまり思わない ■思わない

R 4



R 5



『税について興味・関心がありますか』については、「ある」「少しある」が33%と興味関心が低い状況から65%となり大きな変化が見られた。租税教室や各教科での意識づけ、掲示コーナーなどの取り組みの影響と思われる。

『税金について知りたいと思いますか』については、42%から71%と変化が見られた。それぞれの学年で内容を変えて年2回、租税教室を開催し、専門的な立場から御指導頂くことで学習意欲が高まったと思われる。

『税について家庭で話をしますか』については、「よくする」「たまにする」が18%から14%と意識の低い状況が見られた。保護者への啓発に課題がみられた。

『税金が役に立っていると感じたことがありますか』についても、「よくある」「たまにある」が68%から87%と伸び、幅広く税について学習した成果と思われる。

2 研究の成果

- (1) 租税教育の取り組みによって、税に対する興味関心が高まり、生徒の税への知識や理解を深め、納税意識を高めることができた。
- (2) 税の大切さを感じる割合が大きくなった。
- (3) 全生徒が税についての夏休み課題に取り組むことで、それぞれの視点で税について考え、意欲的に学習するきっかけとなった。
- (4) 租税教育に取り組むことにより今後の社会の在り方について学ぶことができ、「税は取られるもの」から「納めるもの」へと意識が変わり、税のおかげで安心安全に生活でき楽しく学校生活も送れていることにも感謝するようになった。
- (5) 社会の一員として主体的に考え、行動しようとする意欲や態度を育成することができたと考えられる。

3 今後の課題

- (1) アンケートの結果でも値の低かった、「家庭での話題」を高めるために、保護者への啓発活動の方法や、学校で行った租税教育の内容の発信について考える必要がある。
- (2) 租税教育推進係を新たに設け、租税教育を進めてきた。他教科への協力を求め意識づけなど取り組んでもらったが、社会科を中心に行ったので、具体的な授業実践が行えるようにさらなる連携を深める必要がある。
- (3) 新聞記事の活用や税についてのタイムリーなニュースを生徒に提供することで、より生徒の興味・関心を高める必要がある。

IV おわりに

2年間にわたり、鹿児島県租税教育研究委嘱校として、「租税に関心をもち、正しい知識を身につけ、主体的に社会に貢献する生徒の育成」を研究主題として取り組んできました。税についてより興味をもつようになり、税の大切さを学び、税とのかかわりについても理解することができました。

本校の租税教育の研究・実践にあたっては、鹿児島県租税教育推進協議会をはじめ、伊集院税務署、いちき串木野市役所税務課、鹿児島財務事務所の方々には、新型コロナウイルスによる制限のある中、生徒に専門的な立場から教えて頂きました。

関係機関の皆様には多大な御協力・御指導・御助言を頂き、大変お世話になりました。心から感謝を申し上げます。